

雄武中だより

【重点目標】夢や目標をもち、新たな学びに向かう力を高める生徒の育成

学校HP <https://oumuschoolweb.ne.jp/0120012> →



12月号

令和 7年12月19日(金)

発行：雄武町立雄武中学校

電話：(0158)-84-2529

年末年始に思うこと

校長 辻 正 樹

早いもので、まもなく今年も一年の締めくくりを迎えます。毎年のことながら、師走の声を聞くだけで、どこか慌ただしく、忙しさを感じるものです。年を重ねるごとに時間の流れの速さを実感しますが、そんな中でも「忙中閑あり」の心持ちで、謙虚にこの一年を振り返る時間を持ちたいものです。年末年始は、大人にとっても子どもにとっても、新しい年に向けての抱負や将来への展望を考える大切な時期といえるでしょう。生徒の皆さん、保護者の皆さまにとって、この一年はどのような年だったでしょうか。

今年のニュースを振り返ると、「ドジャース大谷翔平選手」や「大阪・関西万博」など、日本に元気を与えてくれる話題があった一方で、「トランプ大統領による関税問題」や「コメ価格の高騰」「ロシア・ウクライナ情勢」など、明るいニュースが少なかった印象もあります。

このような時代だからこそ、将来を担う子どもたち一人ひとりが夢や希望をしっかりと持てるような教育を実現していくことが、私たちの使命だと感じています。また、ストレスの多い厳しい現実の中でも、たくましく生き抜く力を身に付けてほしいと願っています。

本校では、4月以降、学力向上への取り組みはもとより、教科の学習にとどまらず、総合的な学習の時間や学級活動、生徒会による行事、部活動など、さまざまな学習機会を通じて、夢や希望を育み、その実現に向けた活動を展開してきました。子どもたちが「できること」を増やし、達成体験を積み重ねることで、自己肯定感や仲間意識を高め、より意欲的に学校生活を送れるよう、学習指導・生徒指導に努めてまいりました。今後も、自ら考え行動できる生徒の育成を目指し、指導を継続していきます。

一方で、現代の子どもたちは、昭和世代の子どもたちと比べて、日常的な実体験や経験が不足しているという指摘もあります。それが、対人関係の脆弱さの一因になっているとも言われています。本校でも、自分に自信が持てなかったり、他者との関わりに不安を感じたりする子どもたちの姿が見られます。原因はさまざまですが、一人ひとりに寄り添い、気持ちを引き出し、受け止めながら、誰にとっても居心地の良い環境づくりに努めてまいります。

冬季休業中、特に年末年始は、ご家庭で過ごす時間が増えることと思います。ぜひ、お子さまに何か一つでも家庭での役割を与えていただくとともに、普段考えていることや進路・将来について話を聞き、アドバイスをいただければ幸いです。3学期には、皆が元気に、そして一回り成長した姿で登校してくれることを心より願っています。

